

第52回 在宅チーム医療栄養管理研究会

日時：平成21年 9月6日（日） PM 14：00～17：30

場所：社会福祉法人 浴風会 高齢者認知症介護研究・研修センター3F

参加者：会員 25名、一般 6名 合計 31名

研究会の内容：

1. (14：00～14：15) 佐藤代表挨拶：

- ・在宅の現場では、嚥下状態の悪さに驚きます。
患者個々の嚥下の状態が違います。
どうやって栄養補給するか、最後はやはり
栄養士の力が試されると感じるこの頃です。



2. (14：15～14：45) 輸液講座シリーズ③

「経口摂取と輸液、高カロリー輸液、経腸栄養の相補的コラボレーション」

大塚製薬応用開発部：福永善一氏

① 1日必要量の算出について 1800kcalの場合

- ・カロリー比率
P:F:C=20%：20%：60%、水分1800ml、電解質
- ・輸液 3号液(維持液)
NaCl0.3%⇒OS1とほぼ同じで輸液の変わりになる
→参加者で3号液を試飲しました
- ・3号液は、ほとんど吸収され水分と電解質の補給が目的でエネルギーはない
- ・生理食塩水、脂肪乳化剤について
- ・ダブルバッグ(1液+アミノ酸+電解質)、トリプトバッグ(ダブルバッグ+ビタミン)について
- ・長期の輸液管理で不足される栄養素量(脂肪、亜鉛等)
- ・PPN管理法は食事の摂取不足を補足。ここで食事でのどのくらい栄養素量が摂れているかが
計算できるのは管理栄養士である



輸液講座の3回目ですが、栄養ケアマネジメントをするうえで改めて必要な知識と実感しました。

3. (14:45~16:00) 特別講演『在宅歯科診療の最前線と「食支援」への新たなチャレンジ』

ふれあい歯科ごとう 代表：五島朋幸先生

① 訪問歯科診療との出会い

- ・訪問診療をされていた、花枝先生の活動をテレビで見て寝たきり高齢者の現状を知る。
その時代は在宅で入れ歯を作る人が少なかった。
出来ることから始めようと口腔ケアに力を入れる。移動は自転車。
- ・「訪問診療」は、その人の生活によってサポートが変わる。その人によって、目標が変わる。機能によるサポートではない。その人の生活を支えること、その人の家に病院を持ち込むことではない。

② 「食べることの意味」・・・楽しみ、幸福感

- ・口から食べることにより免疫力があがる。
- ・食べることをサポートする→食べられる食形態の考案。

③ 機能回復のための口腔ケア

- ・咀嚼機能回復・・・一つの方法としてスルメトレーニング
(するめを口の外にはみでるようで裂きなめる。動きをみていく)
棒付あめでも可能だが、甘いのが嫌いな人はNG
- ・嚥下機能回復・・・一つの方法として唾液嚥下リハビリテーション
(顎下腺、舌下線のマッサージ)

④ 地域のネットワーク

- ・生活をささえる為には技術、知識、資格が必要だが、お互いを理解しあえて、一人の人間としてネットワークに関わる必要がある。
- ・まずは自分ができることをしっかりと現場で示す!!
- ・新宿食支援研究会・・・ケアマネ、ヘルパー、区役所のネットワークを利用し発足
- ・最後まで口から食べる街、新宿を目標に!!



質疑応答では、実際の在宅患者で今困っていることや、実際に活動のあるネットワーク作りをしていきたいが、新宿でのネットワーク作りはどのようにしてきたのかなど最後まで元気な講演の内容でした。

まずは、出来ることから始めようと、訪問歯科診療の活動を開始された、五島先生の御講演は情熱的でユーモアに溢れた内容でした。

口から食べることの意味そのサポート役をそれぞれの立場で実践していきたいと感じました。

4. (16:15~17:00) 症例検討(摂食嚥下障害について) 2例

- ・嚥下障害の患者の経口移行、経口維持への取り組みの症例検討をグループワークで行った。



5. (17:00~17:15) 次回の勉強会とまとめ

- ・次回勉強会日にち：

平成21年11月15日(日) 第4回在宅チーム医療栄養管理研究会・実践報告・討論会
一般演題の募集告知 一人でも多くの方の発表を期待しております。

- ・まとめ

初参加の方々の感想